

新サービス創出が実現できるデータ連携基盤の構築

学校法人立命館

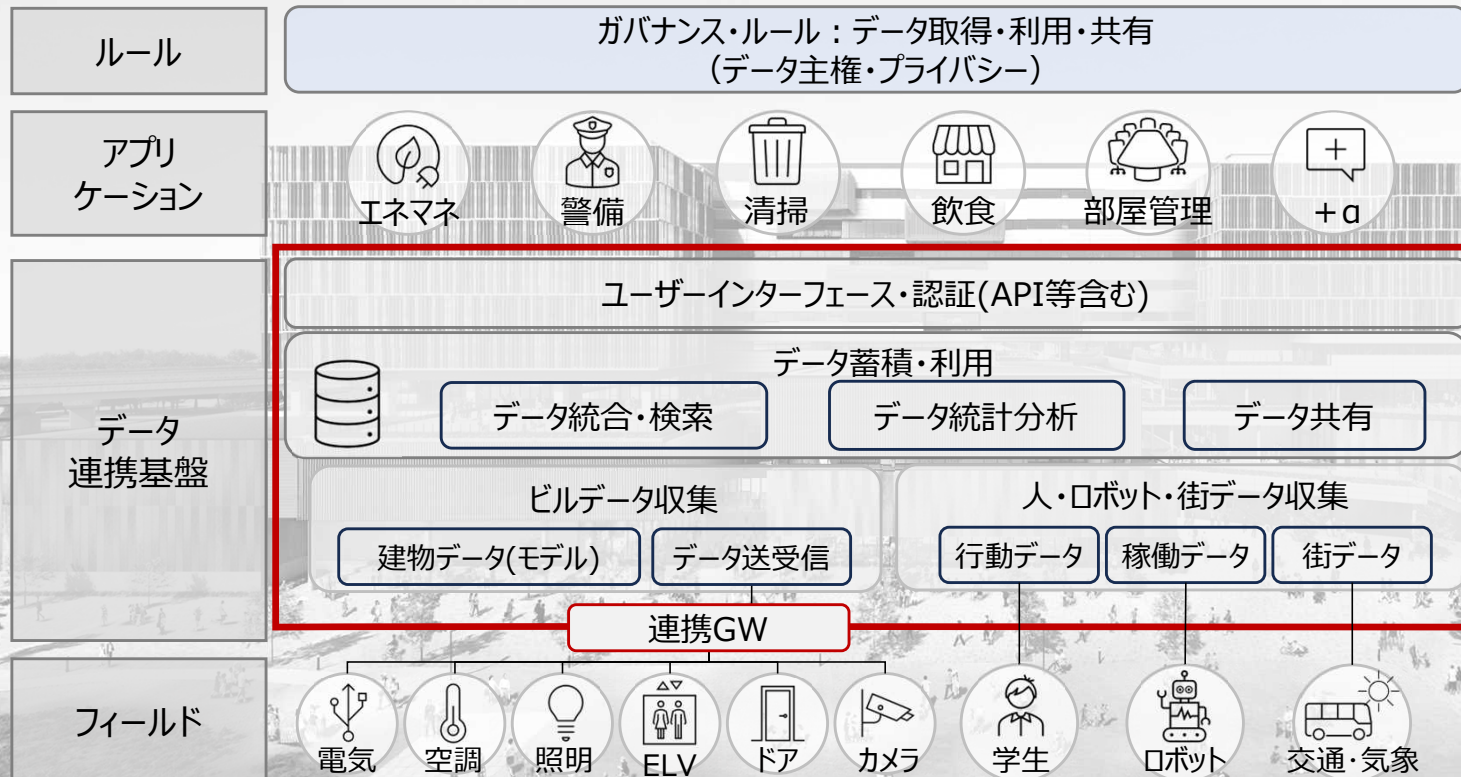
事業概要

- 学生、企業、自治体・地域住民など多様な人が行き交う立命館大学 大阪いばらきキャンパス(OIC)をリビングラボとして活用し、BIM等から抽出されるビル情報やフィールド層の機器、サービスロボット、利用者に識別子(ID)が定義されるデジタルインフラを整備する。その上で、新サービス創出を実現しようとする異なる運用者間でデータを共有・更新できるデータ連携基盤を構築する。
- 多くの事業者によるデータ利活用を前提として、個人情報を含むデータの取り扱いやその共有範囲・粒度に関するガバナンスのあり方やルールについての検討を行う。
- 新築棟に本基盤を整備し代表的なビル管理業務(清掃等)に適用することによってその効率化を評価する。

事業イメージ

立命館大学 大阪いばらきキャンパスは「塀のないキャンパス」として2015年に開設、2024年4月には新棟が供用開始。キャンパス規模は1万人を超え、教育・研究、ビル管理、防災など多様な視点での検証が可能となる。

ビルに係るデータ連携基盤の全体イメージ



- スマートビルの運営・利活用の標準ルール策定を前提
- 企業・自治体との連携を推進し、社会課題の抽出導入および解決手法発見
- オープンイノベーションを志向したスマートビル接続可能機器の実証フィールド
- 新サービス(スタートアップ)輩出
- 1万人超+αのデータエビデンス